

浜田市 100 人委員会アンケート結果一覧

2015 年 5 月（速報）

【主体性】

- ・ 今回で行政任せだったのが、自分が具体的に想像することにより、自分でやる意識に変化した気がします。
- ・ 自分が出来ることを自分なりにやっていくつもりです。皆が協力的にやってもらえたら、もっとまとまるのでは。
- ・ ただの意見会だけに終わらず、可能なことから実現してほしいです。そのために私も自分のできることで協力していきます。
- ・ まちづくりに携わり、また、自治会活動において地域との関わりまた各イベント等で絆を大切に活動をしていることが自分の本分ではなかろうかと思っている。皆様の協力が一番大切である。
- ・ 市民、行政が一体となって、出来ることを実現する、やれることをする気持ちが必要であると感じた。
- ・ 高齢者福祉のグループに入りましたが、具体的に地域の高齢者対策と少子化対策のドッキング事業を進めるべく、計画書を作成しています。今年 3 月には鹿児島にも視察に行きました。具現化に燃えています。
- ・ 広い提案や意見が出て、自分自身を含め勉強になりました。
- ・ 考えていくうちに、「行政の役割」「自分の役割」を明確にすることだと思った。
- ・ ココが出来ることを本日より行動する。
- ・ 今まで行政、民間の役割を考えていました。今日の会で、自分が主体的になり、手伝えるところは何かを知り、動いていくことの大切さを学びました。ありがとうございました！
- ・ 今回 100 人委員会に参加させて頂き、改めて自分の住んでいる浜田市について考えるきっかけとなりました。
- ・ 実際にワークショップをして自分たちは行政に頼っていることが多いと気づき一人一人が浜田を大好きになって自分たちで良くしていこうという気持ちを持てればいいと思います。
- ・ 浜田らしさを考えるのは難しさもあったが、浜田を考える良い機会になりました。
- ・ 行政に頼りすぎたっていう意見も出て自分たちでできることはやっていきたいと思います。
- ・ 100 人の熱意が 1000 人、10000 人へと広がるよう、市民が一つになって取り組めばなんでも出来ると思います。
- ・ 一人一人が参加することで地域が動く。他人事じゃないと思うことが浜田らしいまちづくりに繋がる。
- ・ 市民活動の活性化した地域は、住民の自治力も高いと思う。住民が色んな策を考え、共通の意識を持ちたい。「自治力を育てよう」
- ・ 浜田市がこの先十数年先も続いていくことができるよう、私たちも協力していきたいと思います。
- ・ 誰かがやり始める。自分は、自分の関心のあることを現在手掛けています。忙しいです！
- ・ 市民主体でやる意識を育てるためにも、積極的に各団体に任せてほしい(お見合い企画など)。
- ・ 他人任せにしない、コミュニケーションをとれる集まりをつくる。
- ・ 仲間を増やす若い人が少なすぎるので、知人・友人を誘って何事も取り組む。
- ・ 自分にできることは微力ながら協力していきたい。自分の生きがいのために。
- ・ 実際に出来ることを実行に移す。今日参加している人と相談して実行します。
- ・ 市民・住民の意識向上、市職員のスキルアップが必要。

【ワークショップの設計】

■回数、時間

- ・ 多分多くの人が消化不良ではないでしょうか。最初はイメージ出来なかったところですが、予定の2回目が終わって思うことは、こんなに重たい内容を2度でいいのか。今の状況なら皆さん消化不良の方が強く残ったのではないのでしょうか。このやり方が浜田らしさと言えるかもわかりません。
- ・ 市はやって良かったと言われるが、参加者の感想は反対が多いように思います（消化不良との意味合いから）。
- ・ 今回の話し合いの年齢層として、私も含め、年配の人が多かったように思います。もっと若い人達がどんな意見を持っているのか聞く場が必要ではないかと思いました。
- ・ なるほど！うんうん！深く考えればまだまだ意見がある（出る）と思います。時間不足！
- ・ ワークショップの内容が振興計画、戦略策定に反映させるのは難しい。やはりワークショップは夢の部分や市民行動の確認となります。市民のニーズを探るにはいいと思いますが、健全な財政運営とはかけ離れています。

■テーマ・分野設定

- ・ テーマが抽象的で数多く、具体的な案を出すに至らなかったという印象。自分のアイデアを出せず不完全燃焼だった。

■参加者のバランス

- ・ 委員会は10代、20代の参加者を増やしてほしい。
- ・ 今回の話し合いの年齢層として、私も含め、年配の人が多かったように思います。もっと若い人達がどんな意見を持っているのか聞く場が必要ではないかと思いました。

■ワークの内容

- ・ 項目別のアイデアを付箋に記入する際に提示された「実現のために必要なこと」「取り組むべきこと」がわかりづらかったです。
- ・ 各考え方の基準の幅が広いので、まとまりにくい。
- ・ 考え方は良いが、チームでの話し合いで意識することが難しかった。

3つの基本方針について

【評価】

- ・ 共創という点では評価できると思います。
- ・ 提示されたことでより具体的な意見に導かれたと思います。
- ・ 今回のような話し合える機会を多く開催すること。
- ・ 学校給食のオーガニック、無添加の推進が大切。浜田は給食日本一を目指す。
- ・ 過去行われてきたまちづくりからこれから必要なまちづくりに移っていかなくてはならない中で認識しておかなくてはならないことがシンプルに抑えられていると思う。

【気づき】

- ・ 一番大事なことは持続性だと思う。また一人でも多くの人を動かせることも必要。
- ・ やはり「地域特性」がキーポイントと考えます。これがないと、政策として有効であっても住むモチベーションが上がらない。住みやすい街は全国にあるけど、目指すは「住みたい街」だと思う。ただこの3つの視点は不可欠と思う。出来れば行政と市民の役割の視点も！
- ・ 「浜田らしさ」は難しかったけれど頑張ります。
- ・ 実行できること、将来に結果を残せるためには、大切だと思いました。行政に頼ることではなく、一人一人が意識していくことで浜田市を守れると信じます。
- ・ 行政任せではいけないとは感じています。自分が動くとしたら…の視点は良いと思います。
- ・ 改めて考えると、非常に難しいこととわかりましたが、具体的なことを考える機会を頂き良かったです。ありがとうございました。
- ・ 可能性と持続性は浜田の欠けていることだと思いました。
- ・ 浜田らしさが何なのかを考えると、大変難しかったです。
- ・ 独自性については楽にできたが、実現可能性・持続性については相手や行政に係るので難しいと感じた。
- ・ 範囲が広すぎて、課題にまとめ上げることが大変難しかった。
- ・ 自分が動いているところを具体的に想像できるのは、出来そうで出来ないような気がしたが、本当にやる気があれば出来るのでは…
- ・ お金や動く人がいれば実現できそうなことが多くあったが、「浜田らしさ」元々の浜田らしいことではなく、これが浜田と言うことを進めていくことが大事に思う。
- ・ 「浜田らしさ」については全国的な課題と共通することが多く難しかった。実現可能性については行政への働きかけを全市民的規模で行う必要がある。
- ・ テーマによっては無理があると思います。「浜田らしさ」は難しい。環境においては、浜田らしさは難しかった。どこでも当たり前のことにたいして浜田らしさのシールを付けるのは無理。
- ・ 互助の生活に浸っている中で浜田らしさの施策の考えがなかなか出てこなかった。
- ・ 分野によっては「浜田らしさ」というのは難しいと思いました。

【表現】

- ・ 少し表現がわかりにくいかも…と思います。もしこの表現を今後使われるなら、小学校4年生でもわかる表現が良いかと思います。
- ・ 自分や人が動いて…非常に理解しにくい。
- ・ 浜田らしさということが中々つかみにくく、実現は可能だよね！って話を進めた。

話し合いを具体的にしていくためのアイデア

【分野展開】

- ・ テーマ別に追跡の会議を開き、積み上げ行動に移す。
- ・ 出来ないというのではなく、どうしたら出来るかから考えていくことができればメリットはどうか？浜田が豊かになるか？一つひとつ真剣に取り組んでいくチームを。
- ・ より具体的テーマで話し合う機会を作ってほしい。
- ・ 100人委員会小委員会でも設置し、地域性などを十分把握出来るような組織とし、市の現状を十分考慮しながらの検討を重ねることが必要と考えます。
- ・ 分野別に枠組みされたグループで、テーマを具現化するための個別ワークショップを開催。100人委員会のHPの解説により、議論の拡大！
- ・ 地元で一テーマずつ何かを行ってみる。今後も話し合いを続ける。地域別、世代別、産業別など…
- ・ 意見だけではダメ！具体的なテーマで動き出す会を作ることが必要。
- ・ その分野（たとえば保育、妊産介護）の底辺、見えにくいところをよく知るところから計画していく（現実を知る事が大事と思う。役目を果たすとは？）ことが大切ではないかと思います。
- ・ 無農薬野菜を体に入れるための勉強会を開催して考え方も変える。

【地域展開】

- ・ 市内だけでなく、各地域に出向いて現状の把握から。
- ・ 各地域でワークショップを実施
- ・ 自治区別の交流会を持つ。
- ・ 「出前講座」として地域のお宝・産業を広く教育現場や公民館で開催し、ワークショップをする。
- ・ シマネプロモーションさんに限らず、住民主導、行政サポートの形でワークショップがあちこちで引き続き行われる。
- ・ 公民館単位とした新しい地区内のまちづくり委員会を組織する。

【イベント・社会実験】

- ・ 自治会活動を中心に、多くの市民が参加できるイベントを考えてほしいと思います。
- ・ 地産地消を進めるにあたり、生産者と消費者の交流会を開催し、お互いを理解する。
- ・ 勉強会だけではまともななかったので、より深く意見を落とすため、イベントを行う。
- ・ 大学も社会実験の場として使ってください。
- ・ 社会実験可能であれば、地域の団体、NPOなどを母体に行うと良いと思う。
- ・ 今回集まった人に計画前の実験を手伝ってもらうようなことを行うと精度が上がると思う。

【勉強会】

- ・ 勉強会を重ねる。
- ・ 市の方と勉強会を行う。
- ・ 具体化のためには、予算、法令、制度が関係するため、勉強会を行った上で、可能性のあるものについては社会実験を実施。
- ・ 年齢を越えて明るく話し合える場の提供を希望します。
- ・ 公民館等、研修会を運営できる人材や施設を利用する。行政、民間など色んな立場の方々と同じ目線で円卓会議をする。
- ・ 市役所の職員である前に地域の人間なのでまちづくりのプロとして地域にもっと職員の方に

関わってほしいと思います。そうすれば自治会、公民館、地域協議会等が活発していくと思います。

- ・ まだまだ勉強したいし情報がほしい！自分の町内から少しずつ進めようと思います。
- ・ 具体化のためのワークショップ、勉強会、アンケートを実施してください。
- ・ 成功者の体験談など、具体的な話を聞く機会がほしい。
- ・ 担当部がまず意見発表の内容を検討する。実施すべき項目の絞り込みと、優先順位を決める。既に委員会もあると思うので、員会で検討する。
- ・ 5/12、5/16 だけでなく、一年通しておこなっていけば良いのじゃないですか？
- ・ 色々な世代が入った話し合い
- ・ 先進地を参考にする。
- ・ NPO 浜田フットサルクラブのコミュニティスペース「こんちゃ」を利用してください！！（小会議）
- ・ まちづくり NPO もどうぞご支援ください。
- ・ 子どもの時から勉強していくことが大事。周布小では周布川をきれいにエコタワシづくり、ダンゴづくりなどしています。

【周知】

- ・ アイデアの詳細説明が出来る場を設けるべき（オール浜田縁故米事業）。
- ・ 地域内における各種会合の機会に今回の内容を話しかける。
- ・ 今回のまとめた内容を参加者同士で共有する機会を作してほしい。
- ・ 周知徹底するにはどうすればいいか…だと思います。冊子を渡す、広報誌…だけでは共に行動する人は増えないと思うのは、私だけでしょうか…

【PDCA】

- ・ Plan, Do, Check, Action を続けていくのが必要だと思います。
- ・ しくみづくり：予算も意識して話し合う。
- ・ つくりだしたい状況をきちんと提示する。
- ・ 個々のアイデアと目指すゴールの関連を明確にしていく。目的のための手段なので。
- ・ 誰がいつまでにどのように行うかを明らかにする。
- ・ 短期、中期、長期の工程を作り、確実に進め、途中で到達度を市報で発表する。

総合振興計画、総合戦略策定に期待すること

【市民の声の反映】

- ・ 市のこれからを決めるのに是非市民の声を聞いてください。100 人委員会は大変良い機会だと思いました。
- ・ 今回の意見を積極的に採用し、不明な点を再聴取するなどして政策に反映させてほしい。
- ・ 市民の意見を聞く場をもっともっと設定してください。それを計画に織り込んで頂きたいと思います。
- ・ パブコメは 300 人を目指す。

【プロジェクトマネジメント】

- ・ 期間が長くかかる事業もあると思う。年度計画をきっちり立て、フォロー、見直しをする。
- ・ 計画をどのように見届けていくかを計画もしていく。つくったことで終わらないように。そのモニタリング、評価のプロセスにも 100 人委員会がかかわっていく。

【協働の仕組みづくり】

- ・ 今頑張っている人を活かす支援も盛り込んでください！！人がまちをつくるので、コーディネーターや（人をつなげる、主婦など）多くのコーディネーターに人件費を付けてもらえたら（地元の人にも！）。切望します。
- ・ 行政と市民の協働。市民の中には、行政以上にその道のノウハウや知恵を持っている人がおられるので活かしていくなど。提案実施計画を示せる人を有償で活用。
- ・ これまでの計画は行政が何をするかということにウエイトがあったが、民官住民一人一人が何をしていくかもワークの中で出して言って、記述すること。

【独自性】

- ・ 計画策定にあたって、市単独ではなく隣接する市等と連携を持った方が良い。他の市や町との連携。
- ・ これまでの計画は「浜田」を「大田」や「益田」に代えても全然構わないような紋切り方の美辞麗句が並んでいました。
- ・ 「絵に描いた餅」にならないこと、「将来に対して安定とワクワク感」が盛り込まれることが大切と思う。今さらながらコンサル任せの金太郎あめの戦略からの脱却が必要！
- ・ 地域の格差のない計画の策定を望みます。

【冊子の設計・デザイン】

- ・ コンサルによる計画策定よりは、検討委員会（仮称）手づくりの計画を期待しています。極端に言えば手書きでもよし、（一部）マンガでも良いし、老若男女を問わず関心を持ち、理解出来、身近であって欲しいものです。
- ・ 中学生も読んでわかる冊子を作る、または、市民が何をするのかを明らかにしたものを作る。できた振興計画を元に 100 人委員会から作っていく。
- ・ 計画書（冊子）も作ってください（海士町のような）。

【フィードバック】

- ・ 今回の 100 人委員会が計画を策定するためだけの資料、国に報告するためだけの会ではなく、実際に意見を反映させてほしい。今回の内容は参加者全員に郵送でフィードバック願います。
- ・ 我々の貴重な意見がどのように反映されるのか、期待するものです。出来ればその過程を見せてほしい。